

＜令和2年度大阪府債発行計画における前倒し発行による令和3年度大阪府債発行計画への影響＞

- 令和2年度出納整理期間(令和3年4月・5月)に発行が集中することを回避するため、出納整理期間の発行予定額のうち800億円を令和2年度大阪府債発行計画に前倒したことにより、令和3年4月・5月の発行額は減少した。

・ 令和3年度発行計画(前倒しなかった場合) (令和2年12月現在)

	令和3年4月～5月	令和3年度合計
発行額	1,900億円(※)	8,200億円

※令和2年度出納整理発行分(1,066億円)と令和3年度分(834億円)の合計

令和3年4月～5月発行分のうち、800億円を令和2年度に前倒し発行

・ 令和3年度発行計画(前倒した場合)

	令和3年4月～5月	令和3年度合計
発行額	1,100億円(▲800億円)(※)	7,400億円(▲800億円)

※令和2年度出納整理発行分(266億円)と令和3年度分(834億円)の合計

- この結果、令和3年4月・5月に発行が集中することによる本府債における需給悪化のリスクが軽減するとともに、ひいては地方債市場全体における同リスクの軽減に貢献したと考える。
- なお、この前倒しの影響によって、令和3年度大阪府債発行計画は、令和2年度大阪府債発行計画(7,900億円)よりも減少し、7,400億円の発行見込みとなる。

＜令和3年度発行計画策定における考え方＞

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2回目の緊急事態宣言が行われる等、依然として先行きは不透明であることから、安定的かつ状況に応じて機動的に府債を発行できる体制を整えることが必要。
- このため、市場公募債(10年及び5年)を毎月平準発行することにより、安定調達を確保しつつ、銀行等引受債及びフレックス枠を活用した機動的な計画策定が必要と考えられる。
- なお、下半期については、同感染症の影響等が不透明なため、マスキングする。
- また、今後も同感染症の影響が不透明なため、資金調達手法を多様化する観点から、新たな資金調達の取り組みを検討。